

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年6月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0793100017		
法人名	有限会社 和みの里		
事業所名	なごみの里グループホーム		
所在地	〒963-7704 福島県田村郡三春町大字熊耳字上荒井82番の1 (電話) 0247-62-1777		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなゆうビル302号室		
訪問調査日	平成20年5月22日	評価確定日	平成20年7月1日

【情報提供票より】 (平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 9人, 非常勤 0人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1階建ての 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	12,000~13,500(11~3月) 円	
敷金	有(円)	無(退居時に居室クリーニング代20,000円)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	230 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	70 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	2名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.11歳	最低	76歳	最高	91歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三春病院、西山医院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地から少し離れた自然豊かな地域にあり、近くには警察署、工場、住宅がある。国道に面しているが静かな環境の開設2年弱の1ユニットのホームである。広い敷地には畑や花壇(藤棚等)があり、利用者が職員と一緒に野菜作りや花壇の手入れをしている。季節によっては自由に日光浴を楽しんでおり、家庭的な雰囲気である。開設時には職員の異動があったが、現在は職員も定着し、管理者を軸に職員のチームワークの良さがうかがえ、利用者も落ち着いており、表情がとても明るく、なごやかな雰囲気である。また、開設以来初めて今年2月に看取りを経験し、職員同士もさることながら利用者との絆を深めることができ、さらなる信頼関係が築けたところである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を法人役員及び全職員で話し合い、運営推進会議においても協議し改善に向けて取り組み、行動指針の見直し、災害時の備蓄、重度化や看取りの指針等の作成等真摯に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者や職員は評価の意義を十分理解し、自己評価は日々の介護を見直す良い機会と捉え、全職員で取り組み、サービスの質の向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議の委員は区長、民生委員、弁護士、行政の介護保険担当職員、地域包括支援センター、利用者の家族代表、利用者代表等多彩な顔ぶれとなっている。毎回利用者の生活状況や行事等の報告をはじめ、事故報告、災害訓練、重度化や終末期のあり方等、多岐にわたる協議をしており、回を重ねるごとに充実した内容となっている。委員の助言で屋外に非常ベルを設置し、非常時には近隣住民の協力を得られる体制となった。また、ボランティアの受入等地域とのつきあひも増えてきており、運営推進会議の意義を充分活かした取り組みを行なっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームの行事等はホームだよりで知らせ、利用者の身体状況等は毎月定期的に家族に知らせている。利用者が写っているホーム行事やレクリエーションの写真等も併せて送付するなど、きめ細かに対応している。金銭の報告についても用途を明確にした出納状況の明細書を送付し、家族等の確認を得ている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の自主防災組織に加入したり、地域の方々の見学やボランティアの受け入れ等を積極的に行い、広報誌の地域への配布等を通して地域との交流を図っている。また、運営推進委員の方の協力で地域の行事への参加や老人会や近所の方々との交流等が増えてきており、地域との交流を深める実践的な取り組みに努めている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスをふまえ、理念・行動指針の見直しを職員全員で行い、住み慣れた地域での生活を支援することを行動指針に加えているが、理念にも地域密着型サービスとしての役割を反映した具体的な表現を加えることが望ましい。	○	法人の理念とは別に地域密着型のホームとして、利用者や家族にもわかりやすい自分たちの言葉でホーム独自の理念を作成することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は定例会議やケースカンファレンスを通して理念の実践を具体化し、職員に伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の防災組織に加入したり、地域ボランティア、学生の体験学習を受け入れ、民生委員、地域老人クラブの訪問、広報誌の配布などを通して交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や重要性について職員全員が理解しており、前回の評価結果を踏まえ、自己評価に取り組みサービスの見直しと向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの概要、サービス提供状況、年間行事等を報告しており、回を重ねるごとに委員の理解が深まり、協議内容も多岐にわたっている。グループホームの外部評価について委員から具体的な質問や意見が出され、評価結果の公開により、サービスの質の向上への認識が浸透してきている。運営推進会議の意義を十分に活かした取り組みをしている。		運営推進会議では毎回活発な意見交換が行われ、当初は職員も代表者のみの出席であったが、いまでは全員出席とした。今後は全家族にも参加を呼びかけることを検討されてはどうか。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の請求書送付時に生活状況、受診状況、金銭管理状況等を報告するとともに、家族の訪問時に事業所や利用者の状況を報告している。状態の変化等があった場合には、その都度電話で報告するなど、きめ細かな対応をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には気軽に話をしてもらえるような雰囲気作りに留意している。さらに、家族会を設け、家族同士の意見交換会を行い、出された意見を運営に反映させる体制となっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在は職員の異動はなく、落ち着いてきている。やむを得ず退職等で異動がある場合には、新旧職員と一緒に利用者への支援に当たり、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が資格取得しやすいよう勤務体制で配慮しており、受験料についても支援している。また、資格取得者には待遇に反映させる体制となっている。各種研修会にも計画的に参加させ、職員の資質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修時に情報交換等行い、交流に努めている。また、近隣の市のグループホームの管理者や職員等と交流し、事例検討などを行なっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で利用者からいろんなことを教えてもらい、お互いに支えあいながら生活している、普段から十分に話を傾聴し、学びの姿勢を維持しながら、共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望を把握し、意思疎通困難な利用者については、行動観察や家族から情報を得て意向の把握をし、生活援助計画に反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員が日常生活の中で利用者の思いや考え、希望を把握し、毎月のカンファレンスを通して介護計画に反映させるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しを行っており、状況変化時には家族、本人、関係機関とともに全職員で検討し、見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期的な往診のほか、状況に応じて随時受診の支援を行っており、家族が同行できない場合は職員が同行し、適切な医療が受けられるよう支援している。また、夜間急変時でも医療体制が確保されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の重度化への対応や終末期の看取りについて職員全員が把握しており、重度化・看取りに関する指針や同意書も作成されている。今回開設以来初めての看取りを経験し、職員間の意識の共有が図られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員の意識向上を図りながら、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。個人情報保護の徹底については職員も十分理解し秘密保持に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせて、支援している。居室での食事希望者には、居室に配膳している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳等利用者ができることを職員とともに自然に行っており、職員も一緒に食事を楽しんでいる。特に行事食の献立には利用者の嗜好や希望を取り入れており、利用者の楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間、湯温等は利用者の希望により対応している。ゆず湯や菖蒲湯等季節にあった楽しみも提供している。また、職員は利用者の羞恥心等について十分配慮して支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	野菜作りや料理、手芸等利用者のできること、やりたいことを把握しており、それぞれの役割や場面づくりをし、さりげなく支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	散歩、買い物、理髪等利用者の希望に添った支援をしている。広い敷地内では各自自由に散歩したり、職員とともに野菜づくりや花を育てている。また、ホームの行事としてお花見、紅葉狩り等企画し外出の機会を多く計画している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、利用者の自由な行動を尊重しながら、職員は見守りで対応し、安全面での配慮をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の自主防災組織に加入している。防災訓練は年2回実施しており、非常時には近隣住民の協力が得られるような体制となっている。訓練には近所の住民の参加がある。災害に備えた食料品等も備蓄している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日利用者の食事量や水分量を記録し、それぞれの栄養状態を把握しており、定期的に法人内のデイサービスの管理栄養士に専門的指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々とした共用空間には植木鉢、生け花、絵画、新聞、雑誌などがあり、利用者が自由にゆったり寛ろげるようなつくりになっている。また、リビングや全ての居室から自然豊かな景色を楽しむことができ、季節感のある居心地よい生活を楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していた筆筒・テレビ・冷蔵庫・家族の写真等思い思いの品を持ち込み、それぞれに居心地の良い生活を楽しんでいる。携帯電話を使用して自由に家族や友人と連絡しあっている利用者もいる。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 なごみの里グループホーム

記入担当者名 白川 紀代

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。